



市民ライターがまちの話題をお届け！/
 広報ひだまち特派員レポート
 (特派員：水樹 華・岡田 直樹)

1/7

飛騨市新春経済懇談会が開催 コロナ乗り越える1年に

飛騨市新春経済懇談会が1月7日、飛騨市文化交流センターで行われ、市内の企業代表者や各種団体役員、行政関係者など約80人が参加し、2021年の経済発展に向けて気持ちを新たにしました。

懇談会は、飛騨市の更なる発展のために、経済団体をはじめとする関係者が新年の抱負や展望を語り合う場として毎年開催。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、飲食を伴わない形式で開催されました。

あいさつで都竹市長は「昨年は大変な年だった。今年はコロナ後につながる挑戦を積極的にしてもらいたい」と話しました。

市ビジネスサポートセンター長の伊藤慎吾さんによる講演会「後継者を育てられるリーダーになろう！」もあり、出席者は熱心に耳を傾けていました。



1/12

一人暮らしのお宅にうかがい褒章 押上きよさん 祝百歳！万歳！

古川町増島町の押上きよさんが百歳を迎えられました。1月12日には市民福祉部の藤井弘史部長らが自宅を訪問し、賞状やお祝いの花束、褒賞金を手渡しました。

きよさんは大正10年1月11日生まれ。同じ町内から嫁ぎましたが、旦那さんを戦争で亡くされました。その後、再婚されて息子さんを授かりました。「ずーっと百姓してきたなあ…」としみじみ。5年前までは旦那さんと2人で畑をやりながら暮らされていました。

今は自宅で一人暮らし。足腰も元気で、玄関にもさっと出てこられます。近所に住む姪御さんやヘルパーさん、デイサービスやショートステイなど介護サービスの方との会話も楽しみながら一人で暮らされています。



1/15

旭保育園でレモンクッキング モン果汁を用いて身体に優しい料理を体験

ポッカサッポロフード&ビバレッジと市が共同で取り組んでいる食育事業「レモンクッキング教室」が1月15日、神岡町殿の旭保育園で、年長園児15人を対象に開催しました。今年で7年目を迎えた取り組みです。

この日は藤田智子栄養士が指導にあたり、「身体が暖まる」「骨や歯が強くなる」「お腹の調子を整える」などといったレモン果汁の効果を紹介されました。その後、レモン果汁を用いた酢飯の上に錦糸卵やキュウリ、チーズ、ハムなどを乗せ、ラップで包んで握って手まり寿司を作りました。

また、神岡町山之村地区の特産品である寒干し大根を用いたレモン和えを作り、味わいました。園児は「すっぱい」「レモンの味がする」と話しながら、笑顔で味わっていました。



1/16

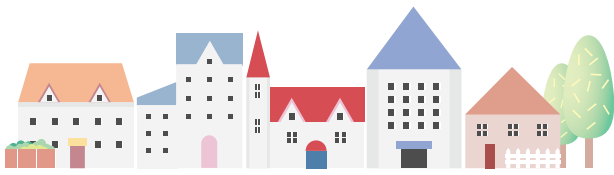
移住者向け「雪下ろし講習」を開催 安全な除雪方法を身に着ける

市では1月16日、市へ移住した人を対象に「雪下ろし講習会」を古城建設業協会（古川町上野）で開催しました。「雪に慣れていないので雪下ろしが不安」という移住者の声が多かったことから、移住者生活等サポート事業の一環として今回初めて行われました。

この日は7人が受講。装備や手順、緊急連絡用に携帯電話を持参することなどの安全対策、屋根の上での雪止めの位置確認、雪庇（せっぴ）切りの方法などを詳しく聞いた後、屋根の上で雪下ろしを学びました。

愛知県小牧市から河合町稲越へ移住した伊藤雪乃さんは「足元の雪を固めながらまず軒先近くまで行って、下から順にジグザグを描くように除雪することなど雪下ろしのコツがよく分かりました」と話していました。





1/18 河合町の「たかきび」を使った料理を提供

市では1月18日、河合町で古くから栽培され、飛騨市伝承作物に認定されている穀物「たかきび」を使った料理を提供する古川町の旅館「ハッ三館」を市伝承作物取扱店として認定しました。

たかきびはモロコシやソルガムとも呼ばれているイネ科の作物。河合町では乾燥させて粉にした後、団子にして食べられてきました。現在は同町内の3軒の農家が、年間計40キロほどを生産しています。

この日は、市伝承作物認定委員会の中矢正志委員長が同館を訪れ、秋田直樹総料理長に取扱店の看板を手渡しました。

中矢委員長は「伝承作物を後世に伝えるという意味でも、活用してもらえてありがたい。今後の活用にもつながれば」と話しました。



1/20 地域の文化財を火災から守る

文化財防火デー（1月26日）を前に市消防本部は1月20日、古川町高野の五社神社で消防訓練を行いました。地域住民に文化財への防火意識を高めてもらい、消火活動とともに、消防隊員や文化財所有者らが連携して文化財を守るのが狙い。この日は古川消防署員15人が参加。社務所のストーブ付近から出火したという想定で、隊員らは本殿への延焼を食い止めようと本番さながらに熱のこもった訓練をしました。

訓練には住民を代表して高野区の塚腰正則区長と同神社の岡田正平総代長も参加。文化財に見立てた段ボール箱を本殿から運び出し、火災発生時の状況を説明したりしました。訓練の様子を見守った岡田総代長らは「隊員の手がかりとされた行動が頼もしく、ほっとしました」などと話していました。



1/27 飛騨市内事業者優良事例 飛騨信用組合がテレワークの拠点を開設

飛騨信用組合は1月27日、新型コロナウイルス感染防止で密になるのを避けるため、本店の職員がテレワークをするための拠点「furukawaBase（フルカワ・ベース）」を古川支店内に開設しました。

フルカワ・ベースは、市民向けに貸し出していた同支店のギャラリーを改装した34平方メートルの部屋。最大4人での利用を想定しており、無線LAN、パソコン用の電源、コピー機のほか、他店と会議するための大型モニターも設置されています。

高山市内の本店では1フロアに最大40人以上が勤めており、感染防止対策が取りにくいいため、分散して働けるようにするのが狙い。災害時に飛騨市在住の職員が出勤できない場合に利用することも想定しています。



1/31 不用品を無料で交換し合って、ごみ減量

子どもが成長して着られなくなった衣服や使わなくなった子ども用品などを持ち寄り、必要な人へ無料で提供するリユース交換会「こどものモノ リユースひろば」が1月31日、飛騨市図書館にじのひろばで開かれました。

より気軽にリユースに取り組んでもらおうと企画されたイベント。子ども服や靴の他、おもちゃやスキー用品など、多くの品がところ狭しと並べられました。会場には多くの家族連れなどが訪れ、掘り出し物がないか見て回っていました。

参加した古川町の塚腰美幸さんは「子どもがスキーをするのが好きなのですが、すぐ靴が小さくなってしまいます。今日は上のサイズの物があってありがたかったです」と話していました。

